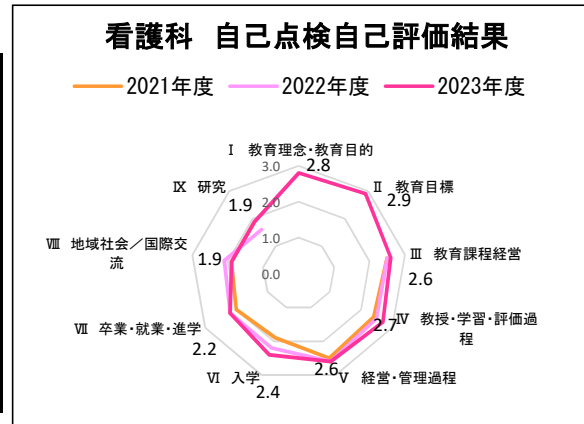


# 2021・2022・2023年度 自己点検自己評価結果 看護科

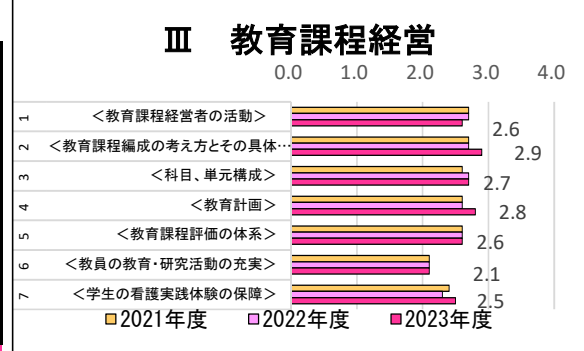
<評価基準> 3：当てはまる 2：やや当てはまる 1：当てはまらない

	2021年度	2022年度	2023年度
I 教育理念・教育目的			2.8
II 教育目標			2.9
III 教育課程経営	2.5	2.5	2.6
IV 教授・学習・評価過程	2.4	2.5	2.7
V 経営・管理過程	2.5	2.6	2.6
VI 入学	1.9	2.2	2.4
VII 卒業・就業・進学	2.0	2.2	2.2
VIII 地域社会／国際交流	1.9	2.1	1.9
IX 研究	1.9	1.6	1.9



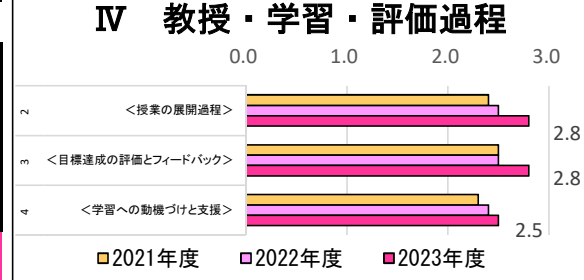
### III 教育課程経営

	2021年度	2022年度	2023年度
1 <教育課程経営者の活動>	2.7	2.7	2.6
2 <教育課程編成の考え方とその具体的な構成>	2.7	2.7	2.9
3 <科目・単元構成>	2.6	2.7	2.7
4 <教育計画>	2.6	2.6	2.8
5 <教育課程評価の体系>	2.6	2.6	2.6
6 <教員の教育・研究活動の充実>	2.1	2.1	2.1
7 <学生の看護実践体験の保障>	2.4	2.3	2.5
平均	2.5	2.5	2.6



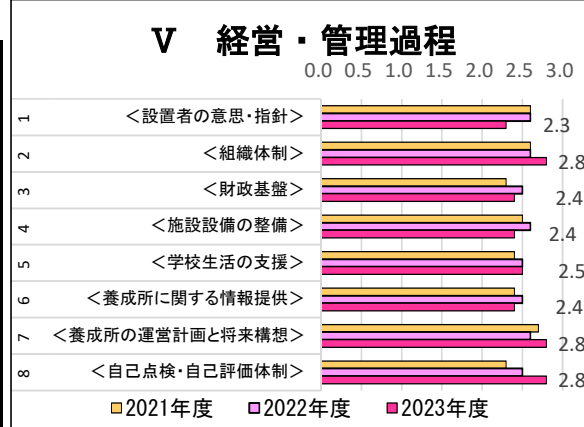
### IV 教授・学習・評価過程

	2021年度	2022年度	2023年度
1 <授業内容と教育課程との一貫性><看護学生としての妥当性><授業内容間の連携と発展>			2.7
2 <授業の展開過程>	2.4	2.5	2.8
3 <目標達成の評価とフィードバック>	2.5	2.5	2.8
4 <学習への動機づけと支援>	2.3	2.4	2.5
平均	2.4	2.5	2.7



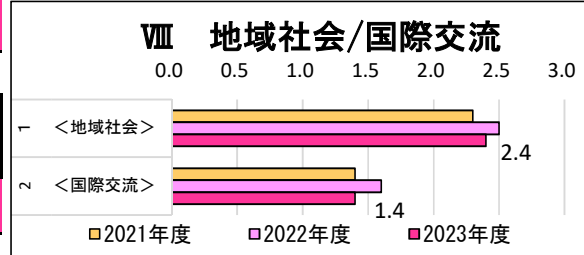
### V 経営・管理過程

	2021年度	2022年度	2023年度
1 <設置者の意思・指針>	2.6	2.6	2.3
2 <組織体制>	2.6	2.6	2.8
3 <財政基盤>	2.3	2.5	2.4
4 <施設設備の整備>	2.5	2.6	2.4
5 <学校生活の支援>	2.4	2.5	2.5
6 <養成所に関する情報提供>	2.4	2.5	2.4
7 <養成所の運営計画と将来構想>	2.7	2.6	2.8
8 <自己点検・自己評価体制>	2.3	2.5	2.8
平均	2.5	2.6	2.6



### VIII 地域社会／国際交流

	2021年度	2022年度	2023年度
1 <地域社会>	2.3	2.5	2.4
2 <国際交流>	1.4	1.6	1.4
平均	1.9	2.1	1.9



## 2023 年度 重点課題に対する評価 看護科

【 評価基準 】	評価点 (平均)
4 : 達成できた 3 : まあまあできた 2 : あまりできていない 1 : 達成できていない	
1. 新カリキュラムに掲げた教育方針を目指し実践する	2.6
①教育内容について不確かな事柄については、速やかに教務会議で検討を行う	3.1
②ディプロマポリシーを意識し、学生個々の能力を引き出すかかわりの実践	2.1
③ICT 教育実践のため、オンライン授業を月に 1 回実施する	1.9
2. 学生の学習意欲と技術が向上できるように、学生個々に応じたサポートを行う	2.3
①看護技術の到達レベルを学生自ら意識して、各技術項目の到達度を達成できる	2.3
②卒業時のアンケート調査で「学生のサポート体制」における肯定的意見の 70%を目指す	3.1
③オープンキャンパスの内容を充実させ、学生確保（定員充足率 90%）に努める	1.3
3. 看護師国家試験の全員（既卒者を含め）合格を目指す	1.1
4. ワークライフバランスの取れた働き方を目指す	2.1

重点課題 1 全体の教員の評価は 2.6 であった。①では、2023 年度から新カリキュラムが開始となり、これまで検討した教育内容を実践しながら、その都度改善点を共有した。教務会議やカリキュラム検討会を月に 4 ～ 5 回設けて教育方法の再検討を図ることができ、評価は 3.1 と高かった。②の評価は 2.1 であり、教員によっては「常に教育目的、ディプロマポリシーに戻って学生へ伝え、自分の意識にも根付いた指導となった」との意見があったが、7 割の教員が「あまりできていない」との評価であった。その理由として、新しい役割の遂行に追われて学生とゆっくりかかわる時間の捻出ができず、ディプロマポリシーを意識したかかわりができていなかった。また学生個々の能力を引き出すかかわりが十分にできなかつたり、その難しさを感じたりして評価が低くなったとの意見が聞かれた。しかし、1 年次のディプロマポリシーに掲げた 5 つの力の達成状況に対する学生の自己評価は高く、教員との差があった。③の評価は 1.9 と低値であり、オンライン授業の実施はようやく制限なく対面授業が可能となったことから、年間を通して 4 回にとどまった。今後も引き続き、新カリキュラムに掲げた教育方針を目指して、学生個々の能力を引き出すかかわりを実践していく。また ICT 教育推進に向け、オンライン授業においても月に 1 回の実施を計画して取り組んでいく。

重点課題 2 全体の評価は 2.3 であった。①は新カリキュラムから「看護師教育の技術項目（71 項目）と卒業時の到達度」が明示され、1 年生は演習や技術試験、基礎看護学実習終了後に看護技術の到達度を自己評価したことで、意識できたと考える。2 年生は各看護学実習終了時に自己評価した結果、卒業時のカリキュラム評価「専門的な技術が身についたか」では 92%の学生が肯定的な意見であり、技術は到達できたと評価している。しかし教員の評価は 2.3 であり、学生の自己評価と教員による評価に差がみられた。②では、2022 年度の調査で「学生サポート体制」における肯定的意見が 50%であったが、2023 年度は 92%と高く教員の評価も 3.1 と高かった。その要因としては、精神面の課題を抱える学生が多くなり、教員から学生へ声を掛けたり、面接を行ったりしたことがサポートを受けているとの認識に繋がり、高評価だったと考える。③の評価は 1.3 と非常に低く、これは今年の新入生が 27 名（67.5%）と最少人数であったことが最大の要

困と考える。夏に開催したオープンキャンパスでは趣向を変えて、誰もがどの時間帯からでも気軽に立ち寄れるスケジュールとしたが、参加者数の増加はなかった。今後は、参加者の満足度をさらに高めるために、内容と方法を検討して引き続き学生確保に努める。

重点課題3の評価は1.1と最低値であった。2023年度の国家試験合格率は新卒者で65.4%（既卒者0%）であり、全国平均から大きく下回ってしまった。2023年度の受験者は、4年間に渡ってコロナウイルス感染症の影響を受け、学習面や精神面の課題が大きかったと考える。また2年間のカリキュラム上、例年、再実習終了から国家試験日までの期間が短かったため、自己学習を強化するよう指導をしていたが、実習と国家試験学習の両立が困難な状況であったと考える。今後は新カリキュラムで、実習時間の変更に伴い再実習時期の見直しが可能となり、国家試験までの学習期間をしっかりと確保できるようにカリキュラムを組んだ。教員の関わりとしては、これまで同様チューター制による学生サポートを行ってきたが、2023年度は大幅な教員の役割交替や新任教員のサポートも重なったことが影響したとも考える。今後は、国家試験受験者（既卒者含む）の合格に向けた取り組みを重点課題とする。

重点課題4の評価は2.1と低値であり、経験年数によるが個人差が大きいように感じた。2023年度はほとんどの教員が新たな役割を担っていたため、まずは自己の確実な業務遂行を意識していたと思われる。教員の意見では「教育経験の少ない教員のサポート体制について再検討が必要だと改めて感じた」や「ワークライフバランスをなかなか意識できていなかった」とあり、今後はますます教員間の協力体制が求められるため、業務の見直しや改善を図ってサポート体制を強化し、各自が時間管理を意識する必要がある。

## 2024 年度 重点課題 看護科

### 1. 看護師国家試験の合格率を全国平均まで回復させる（既卒者含む）

- ①チューター毎に個人指導の時間をしっかりと、国家試験に向けてのモチベーションの向上、危機感をもたせ維持する関わりを心掛ける
- ②各看護領域の出題傾向と対策についての情報収集を強化し、専門性を高めた講義や実習指導につなげる

### 2. 新カリキュラムにおける課題や改善点を共有し、教育内容や方法の検討を行う

- ①シラバスや実習の組み立て（時期や実習方法など）について随時検討を行う
- ②ICT 教育実践のため、オンライン授業を月に 1 回実施する

### 3. 学生個々に応じたサポートを行い、中途退学者の減少を目指す

- ①現代若者気質を理解し、学生が理解（納得）できる伝達方法を工夫する  
（「教える」から「学ぶ」への転換）
- ②学生を成人学習者として尊重し、自律（自立）と責任を育てる関わり

### 4. ワークライフバランスの取れた働き方を目指す

- ①各役割における業務の見直しや改善を図り、時間管理を意識する
- ②必要に応じて協力を依頼し、互いのサポート体制を強化する